

1 学校経営ビジョン

| |
|---|
| <p>「五訓」や「創設のことば」の実現に向けて</p> <p>① 6年間の一貫教育を活かした学校のカリキュラムや寮教育を通して、確かな学力と自主性、自立性、協調性のある生徒の育成を図る。</p> <p>② 生徒一人ひとりの夢や希望を実現するための進路指導体制を構築する。</p> <p>③ 常に学び続けながら教科の専門性を高め、チャレンジする教師集団づくりを行う。</p> <p>④ 感動と感性の教育を基盤に、豊かな人間性と社会性を育成する。</p> <p>⑤ 安心安全な学校・寮づくりを推進する。</p> |
|---|

2 重点目標と主な達成手段

| |
|--|
| <p>1 確かな学力を身につけた生徒の育成</p> <p>a 基礎学力（知識・技能の習得）の定着</p> <p>b 思考力・判断力・表現力の育成を目指した授業実践</p> <p>c 主体的に学習に取り組む態度の育成</p> |
| <p>2 自主性・自立性・協調性のある生徒の育成</p> <p>a 6年間の教育課程や全寮制の生活体験を通じた自己教育力の育成</p> <p>b 異学年集団等を活用した社会性・人間性の育成</p> <p>c 自尊感情や規範意識の醸成</p> |
| <p>3 生徒の進路実現に向けた取組</p> <p>a 進学実績の向上にも繋がる、中・長期的進路指導体制の構築</p> |
| <p>4 学び続ける教師集団とOJT</p> <p>a 学ぶ意欲を喚起し、高い学力を目指す授業の工夫改善、授業改革</p> <p>b 自己研鑽への取組（研修への積極的な参加等）</p> |
| <p>5 安全・安心な学校・寮</p> <p>a 教師の情報共有化とリスク管理の意識向上</p> <p>b カウンセリングマインドを持った生徒指導</p> <p>c 命を大切にす教育の推進</p> |

3 重点目標と主な達成手段の評価

【本年度の各取組と成果の欄を記述し、その次の評価欄にA～Dを記入する。】

※ A：目標達成 B：達成状況が70%以上 C：50%以上 D：50%未満

| 達成手段 | 達成手段にかかわる取組と成果 | 評価 |
|-----------------------|---|----|
| 1 確かな学力の育成を身につけた生徒の育成 | <p>【①長期的なきめ細かい指導による前期生の下位層の削減】（教務）</p> <p>本人の希望と各教科での検討をもとに、レベルアップ対象生徒を選出した。教科の担当者によって、放課後を活用しながら、個別指導を実施した。成績が上がったことや個別学習によって、学習意欲が高まった生徒が見られた。</p> | B |
| | <p>【②長期的なきめ細かい指導による後期生の下位層の削減】（教務）</p> <p>定期テスト45点未満の生徒を対象に温習指導生集会・放課後学習の実施、STEP By STEPファイルを用いた振り返り指導、テスト3週間前の個別指導等を継続的に行った。本年度も寮教育部に協力して頂き、生徒の基礎学力の向上と主体的に学ぶ姿勢の育成を目指した取組を行うことができた。また、8月の帰省日には9名の生徒に対して、保護者とともに学習面談を実施し、学習に対する保護者の理解・協力を得ることができた。</p> | B |
| | <p>【③長期休業課題の提出にむけての取組】（教務）</p> <p>前期生集会で教務部からの話として、休暇での学習の仕方や生活習慣の重要性について話を行った。長期休暇明けは、学年職員や寮職員の協力を得ながら、課題が完了するまで、学習させることができた。</p> | B |
| | <p>【④生徒の学力把握と学力向上】（進路）</p> <p>全職員での学力検討会を実施し、本校生徒の学力の実態や学力到達目標等についての共通理解を図る取組ができた。また、生徒に与える課題についての情報交換を行うことで、生徒の学習に対する目線合わせを図ることができた。学力向上に関しては、日々の授業で習得した知識や技能等をさらに強化できるよう、土曜講座、夏・冬季課外、放課後課外、冬季学習会等を実施した。さらなる学力向上のために、主体的な学びができるよう講座制を導入するなど、魅力ある課外・土曜講座を企画していく必要がある。</p> | B |
| | <p>【⑤前期生の定期テストに取り組む意識の向上と下位層の削減】（前期）</p> <p>教務と連携して、前期生集会で定期テスト7割未満の生徒ゼロを周知徹底させた。学年の取組としては、個人学習やグループ学習を活用し、分か</p> | B |

| | | | |
|---|---|---|----------|
| | らない所を友人に聞ける環境づくりを行ったり、テストに向けての努力目標や反省を踏まえ、保護者にも確認して頂くような取組も行った。しかし、定期テスト7割未満の生徒が、定期Ⅰ(14%)Ⅱ(24%)Ⅲ(27%)と学年によって差はあるものの、学力の差も生じている。今後、寮教育部とも連携した下位層に対する学び合い学習の充実も図っていきたい。 | | |
| b 思考力 ・判断力 ・表現力 の育成を 目指した 授業実践 | 【①GF学習の成果を見据えた授業改善の提案】(研究) 授業改革プロジェクトが本格的に動き出し、12月の授業研修ではこれまで以上の内容の濃い研修となった。音楽とTOKの研究授業が主であったが外部からの評価が非常に高く、文科省からの中間評価で指摘された各教科の授業への波及効果についての大きなヒントとなった。 | A | A |
| c 主体的 に学習に 取り組む 態度の育 | 【①「学習の心得」による指導】(教務) 年度当初に前期生に対し、授業を受ける心構えや、挨拶の仕方について指導を行った。また、常に啓発ができるように、出席簿の裏に「学習の心得」のシートを付けるなどを行った。 | B | B |
| | 【②学校行事の質の向上】(生指) 教師が把握する上での生徒が主体となる行事運営を行ってきた。生徒の成長を感じられる運営ができていると感じる。教師が導きつつ、達成感を味わわせていきたい。 | A | |
| | 【③寮学習の充実】(寮教育) 学習委員会を中心に、学習会の企画や運営を行うことができた。主にテスト前の期間に、学習室で学び合いを行う姿が見られるようになった。 | B | |
| | 【④各教科の課題に対する取組指導】(前期) 課題未提出者に対する教科担任による放課後指導や、学年の取組として、計画的な学習時間の活用を毎日記録させたりして、課題への取組の強化を図るなどの工夫もしている。しかし、なかなか課題の出せない生徒もおり、学年で個別対応している。また、長期休業課題の提出状況はよいとは言えないが、学年での指導や保護者への連絡などで対応している。 | B | |
| | 【⑤GT(五ヶ瀬タイム)の実施と効果的な指導の研究】(後期) 各学年(4年・5年・6年)で、計画的に取り組むことができた。 | B | |
| 2 自主性・自立性・協調性のある生徒の育成 | | | |
| a 6年間 の教育課 程や全寮 制の生活 教育力の 育成 | 【①バランスのよい教育課程の編成】(教務) 昨年度作成した教育課程表(A表、C表)をもとに教科代表者会、教科会を中心に話し合いを行った。今年度は1学期の中旬から始め、検討する時間を多くとることができた。 | B | B |
| | 【②教育課程の理解と履修科目の登録】(教務) 担当校務分掌、教科・科目から、生徒・保護者に対し、説明を行っていただいた。説明会後の相談については、学級担任、進路指導部、関係教科科目の先生方で個別に対応していただいた。 | A | |
| | 【③十分な授業時間の確保】(教務) 曜日変更を行ったり、特編授業を設けることで、年間授業時数の平準化を図った。テストの回数が減り、行事の精選を行ったことにより、授業時数が少し増加した。 | B | |
| | 【④生徒が学び、考える機会の設定】(進路) 進路講演会や人生講座といった外部講師を招いての企画や進路通信などを通して、多様な視点から生徒が自らの進路や社会に対して考える機会を設けることができた。生徒の学びを蓄積したり、振り返ったりするために今年度より進路ファイルを導入したが、有効な活用方法を考える必要がある。 | B | |
| | 【⑤保健管理・指導による健康の保持増進】(環境) 病院搬送が昨年度に比べると減ってきている。また、午前・午後ともに決められた時間で病院搬送をするようになってきて、時間外にいきいたいという勝手なことをいう生徒がいなくなった。インフルエンザに罹患した生徒も昨年度よりは少なかった。感染予防の一つである手洗い・うがいが、いい加減になってしまっている生徒が増えてきているのは反省点である。環境保健部だけではなく、寮教育部とも連携を図っていく必要がある。 | B | |
| | 【⑥読書内容の質の向上】(情報) 県立図書館のマイラインサービスの本格的な導入と、エリアコーディネーターの定期的な来校で、例年よりも充実したものになった。 「学びの森220Books」 生徒達が、より読みやすく、充実した読書活動ができるよう、内容の見直しを行った。 | A | |

| | | | |
|---|---|---|---|
| | 「ブックトーク」 年間2回実施することができた。 「読書のススメ」 一昨年度からの取り組みで、図書委員の活動の活性化につながった。 | | |
| | 【⑦寮における基本的生活習慣の確立】(寮教育) 就寝時間と点呼時間を変更した。寮日課変更後もそれぞれがしっかりと適応していると感じる。 | B | |
| | 【⑧前期課程との連携、学年リーダー会の実施や後期担任会のあり方の検討】(後期) 今度も学年リーダー会を不定期ではあるが課外中に開催することができた。第2回目は、時間がある先生に参加していただく形式にしたが、本校の生徒像などについても少し共通理解をする必要があった。 | C | |
| b 異学年 集団等を 活用した 社会性・ 人間性の 育成 | 【①ホームステイの充実化】(生指) 今年度は対象学年を2年・5年の2学年で実施した。第2回が台風のため中止になったが、ホストファミリーの協力も有り、ほとんどが予備日で受け入れていただいた。学年が少なかったため対応できた。受け入れ件数は30件だった。 | B | B |
| | 【②給食指導等による基本的な生活習慣の確立・食事マナーの習得】(環境) 給食・決められた睡眠時間のおかげで、基本的な生活習慣の確立はなされている方であるが、休日に昼食・夕食を食べない生徒がいるため残菜につながってしまう。生活習慣の確立・食べ物を大事にするという観点からも、寮教育部と連携を図り改善していきたい。食事のマナーは、まだまだ改善していかないとはいけない状況である。特に食事のマナーは、職員全員で声をかけてなおさせていきたい。全職員の協力が必要である。前期生の手洗い・うがい指導が徹底されておらず、職員の方も曜日ごとに割り振ってあったがその他の仕事などでつけないことが多く再度お願いしたいと考えています。 | C | |
| | 【③美化や安全に対する意識、勤労意欲の高揚】(環境) 清掃の取り組みに差があるため、日頃の清掃指導時において先生方からの声かけが必要な場所もある。全体的に見て自主的に清掃に取り組む姿勢は低く、生徒への意識向上の手立てを考えていきたい。また、しっかり清掃するために、道具類の確保、古いものの交換をしっかりしていきたいと思う。 | C | |
| | 【④ファミリー制度・各種委員会の充実】(寮教育) 昨年度の引継ぎと今年度の新たな取り組みを検討し、それぞれの委員会で充実した活動を行うことができた。ファミリー単位で清掃をする取り組みもあり、これからも様々な場面でファミリーの活動を推進していきたい。 | B | |
| | 【⑤前期生のリーダーシップ育成】(前期) 今年は、3年生が前期のリーダーとして、前期生集会で「今、自分たちの課題や問題点は何か」についてのグループ討論の企画運営をしてくれた。また前期生の行事である音楽祭では、そのリーダー性を3年生を中心にどの学年も遺憾なく発揮してくれた。全体的には、前期生全体にもっとリーダー性が発揮できる場の設定や経験をつませる必要があると考える。 | B | |
| c 自尊感情 や規範意識 の醸成 | 【①規範意識の醸成と規律ある生活習慣の確立】(生指) 前後期含め、学校や寮で守るべきルールやマナーが守られていない面も一部見受けられ、時間に対するルーズさも多く見られ、自分勝手な行動が周りに迷惑をかけるといった意識の低さもうかがえる。集団の一員であるという規範意識をもっと高めていく必要がある。 | B | B |
| | 【②寮則の遵守・自他を思いやる寮生の育成】(寮教育) 軽微な寮則違反が見られた。集団生活を送る上で、生徒一人ひとりに自分事として考えてもらう機会をつくりたい。 | C | |
| | 【③規範意識の成就・規律ある生活習慣の確立】(前期) 多くの生徒は生活習慣も確立され、規範意識をもった行動はできてはいるが、なかなか基本的な生活習慣も確立できず、いつもぎりぎりに行動したり、ルールを守れず人に迷惑をかけたり、人任せに行動するなどの様子も見受けられる。また、前期生によるお金やお菓子の紛失、盗難、器物破損、寮を抜け出すといった問題行動もあり、学年で厳しく対応した。学級や委員会の働きかけなど、生徒が主体的に学校や寮のルールを守っていくとい | B | |

| | | | |
|-------------------------------|--|---|---|
| | った規範意識の向上に努めていく必要がある。 | | |
| | 【④後期生の規範意識の確立・チームによる生徒対応】(後期) 特別指導が、2件あった。寮を無断で抜けだすなどの自分勝手な行動をとる生徒がいた。寮に持ち込み禁止物などを持ち込んでいた生徒もいて、今後は、オーディオ機器など持ち込み品についても検討が必要になってくるだろう。 | B | |
| 3 | 生徒の進路実現に向けた取組 | | |
| a 進学実績の向上にも繋がる、中・長期的進路指導体制の構築 | 【①望ましい「勤労観」や「職業観」の育成】(進路) 進路発表会(1年)、職場体験学習(2年)を実施し、働くことの意味や意義について考えさせることができた。また、土曜講座での視聴覚教材を用いた学習、全職員によるプラスワン面談など、様々な生き方や職業について生徒が触れる機会を設けることができた。 | B | B |
| | 【②進路指導に関する職員の共通理解】(進路) 年度初めの職員研修において、本校の進路指導における目標や到達度について共有する機会を設けることはできた。6年間を見据えた進路指導体制を構築していくうえで、各学年における目標や取組について、さらなる共通理解が必要となってくる。 | B | |
| | 【③後期生の進路意識の高揚】(後期) 後期生集会や進路通信などで進路に関する話をしていただいた。4月始めの学習会や12月の学習会などを実施することで、学習や進路に対する取り組みに意欲が出たと思う。一方で、定期テストの温習生が毎回、同じ生徒であることが課題である。 | B | |
| 4 | 学び続ける教師集団とOJT | | |
| a 学ぶ意欲を喚起し、高い指す授業の工夫改善、授業改革 | 【①授業の工夫改善、授業改革の機会設定】(教務) 今年度は昨年度の反省から5日間の実施になった。アンケートからも先生方の授業が参観でき、参考になったという意見が多かった。 | A | A |
| | 【②実力テスト作成による指導力向上】(進路) 校内実力テストを年2回実施し、学力到達度を設定したうえでの問題作成を行ったことで、今まで以上に大学入試問題研究の充実を図ることができた。また、トップセミナー・グレードアップセミナーの参観、問題作成力向上セミナーなどへの職員の参加を促した。 | B | |
| b 自己研鑽への取組(研修への積極的な参加等) | 【①持続可能なSGH事業の模索、他大学との連携強化】(研究) SGH指定後、予算が無い中での運営を視野に入れて宮崎県内の大学や企業、県教育委員会と更なる連携を強化するため、本校の行っていることを理解してもらい、協力をしてもらった。具体的には宮崎大学や宮崎国際大学、NPOグローバルアカデミー、県教育委員会を中心に調査研究発表会での審査員や分科会での指導GF学習での講師などの協力を仰いだ。その一環として、今年度はスタディツアーの留学生を一部宮崎大学の留学生としたり、3月の調査研究発表会では宮崎県内の方に審査員として来てもらうことが内定している。 | C | B |
| | 【②攻める広報活動】(研究) 職員研修やGF学習、調査研究発表会等参加を募るためFAXやメール等を利用した結果、県内だけでなく、県外からも参加者が来て交流することにより、学校外の視点からの意見も得ることができた。 また、回数は少なかったが、学校説明会に研究調査部員が入ることにより、本校の特色の1つであるGF学習について、より具体的に説明ができた。 | C | |
| | 【③Global Competencyの実施と分析】(研究) データが3年分揃ったので、SGH報告書に分析結果を載せている。来年度の6年生がGlobal Competencyを1から行った学年となるので、文科省からの中間評価であった生徒の変容の測定や評価方法についてより変化が分かる分析結果となる予定である。 | A | |
| 5 | 安全・安心な学校・寮 | | |
| a 教師の情報共有化とリスク管理の意識向上 | 【①生徒の情報の共有化】(生指) 様々な問題行動やトラブルが発生した場合、学年団を中心に対応していただき、連絡を密にもらった。職員連絡会において情報共有を図った。職員間で共有すべきことを共有していきたい。 | B | B |
| | 【②定期的な教育相談会やケース会、教育相談の実施】(生指) 年間9回の臨床心理士によるカウンセリングや本校職員による教育相談を実施した。また、毎週1回定期的に教育相談委員会を開催し、情報の共有 | B | |

| | | | | |
|---|--|--|----------|----------|
| | を図った。 | | | |
| | <p>【③進路情報や本校の取組発信】（進路）</p> <p>「進路通信」を昨年度よりも多く発行することができ、本校の進路指導の取組や受験に関する情報、大学入試改革の情報などを、適宜提供することができた。生徒の大学説明会への積極的な参加も見られ、一定の効果を上げることができた。HPでの発信も充実させていきたい。</p> | A | | |
| | <p>【④災害発生時に適切な判断や行動選択ができる生徒の育成】（環境）</p> <p>年2回実施している防災訓練に、生徒達は真剣に取り組み考えて行動できていると思う。毎年、単調になりすぎないように今後も工夫していきたい。</p> | A | | |
| | <p>【⑤各種行事における保護者との協力体制の維持】（情報）</p> <p>PTA総会、地区懇談会、PTAバザー、ママカフェ等、PTAとうまく連携して活動することができた。</p> | A | | |
| | <p>【⑥保護者への定期的で確実な情報提供】（情報）</p> <p>「学校だより」</p> <p>毎月、各校務分掌からの連絡・情報を定期的に保護者に提供できた。今年度は、学校だよりの運用について、職員に周知徹底がなされていない部分もあったので、工夫しなければならない。</p> <p>「ホームページ」</p> <p>先生方の協力もあり、概ね定期的に更新できたが、更に幅広い情報提供を求められているので、定期的な呼びかけを行っていかなければならない。</p> | B | A | |
| | <p>【⑦情報モラルや情報セキュリティ対策の徹底】（情報）</p> <p>職員研修や授業等を通して情報モラルについては呼びかけや指導を行っているが、まだ不十分な部分がある。</p> | B | | |
| | <p>【⑧前期生の心身の変化への対応】（前期）</p> <p>人間関係づくりがなかなかうまくいかない生徒や、ホームシックによる不安や悩みを抱える生徒が多く見られ、学年でその都度対応した。また、担任会や学年会、教育相談会などで気になる生徒の様子を伝え、共通理解している。今後も生徒とのラポートづくりに務め、保健室とも密に連絡を取り合っていきたい。</p> | A | | |
| b | カウ ンセ リン グ マ イ ン ド を 持 っ た 生 徒 指 導 | <p>【①一人ひとりの寮生と向き合った生活指導の実現】（寮教育）</p> <p>寮生の状況について、ハウスマスターや学年職員と密に報告しあい、適宜対応することができた。</p> | A | A |
| | <p>【②面談・生活の記録による生徒様子確認と保護者への報告】（前期）</p> <p>学年団を中心とした二者面談を年に数回実施し、生徒理解に努めた。また、担任を中心に「生活のあゆみ」を活用した生徒理解に努め、気になる生徒には声かけや面談を行い、保護者への連絡も含めた早期の対応をしている。</p> | A | | |
| c | 命を大 切にす る 教 育の 推 進 | <p>【①L I F Eの授業をとおして自他の命を大切にす生徒の育成】（環境）</p> <p>各学年団で工夫して、計画実践していただいているのでありがたいです。来年度に向けて授業内容の精選をして、6年間を見通した授業内容を検討していきたい。</p> | A | A |

学校関係者評価における総合評価

県内に本校以外の中高一貫校が設置されたことや小中一貫校が増えつつある現状を考えると、目的意識の高い生徒をいかに募集するかが課題である。SGH（スーパーグローバルハイスクール）の指定校として、他校にはない特色ある教育活動が行われている。その魅力を、地域はもとより県内全体に発信する取組を行ってほしい。

五ヶ瀬中学校の生徒と実施した、「グローバルシンポジウムin 五ヶ瀬」では、五ヶ瀬町が抱える課題や課題研究でも五ヶ瀬の長所を生かした取組等、若い世代の柔軟な発想を生かした提言があり、大変頼もしかった。

次年度以降の課題として、五ヶ瀬中等教育学校だからこそできることのアピールや寮生活における生徒の規範意識の醸成や良好な人間関係づくり、地域や保護者との連携・交流の充実等が挙げられる。